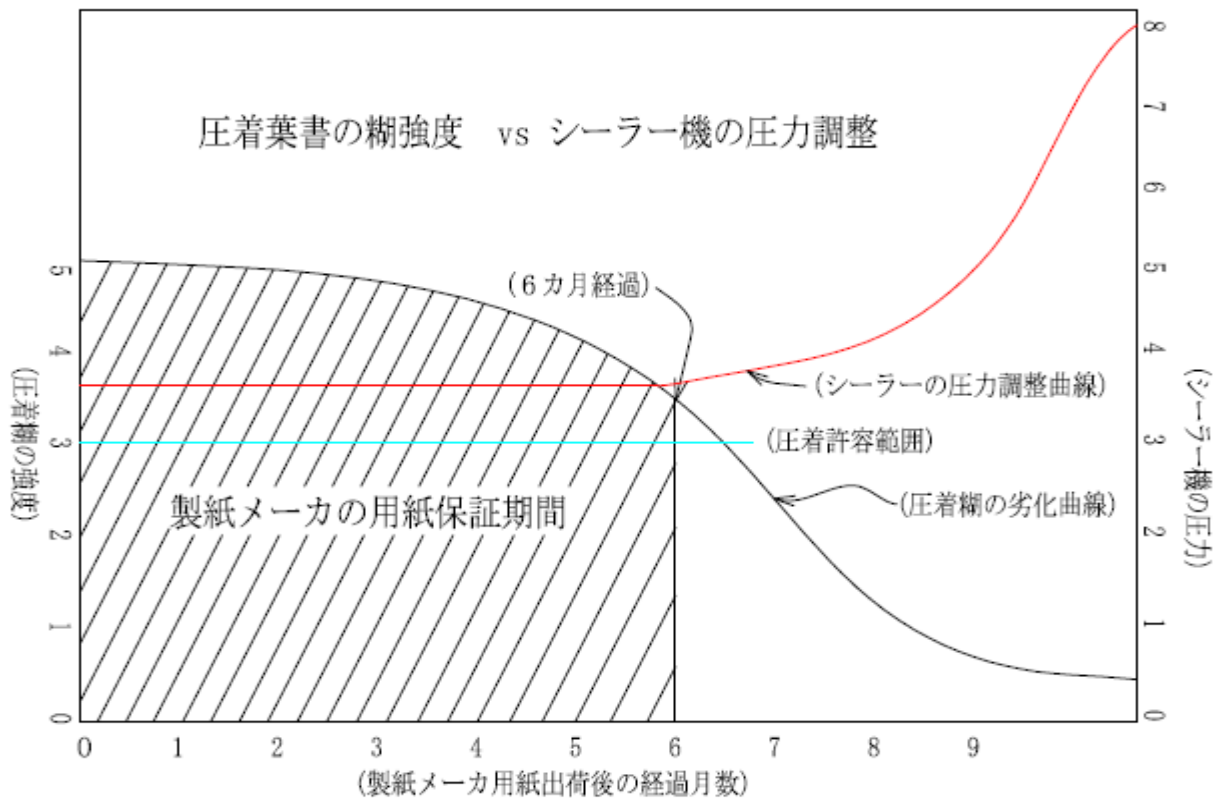


圧着ハガキの隠蔽強度ついて(剥離の程度)



通常、シーラーの圧力調整は、用紙の糊強度の許容範囲期間内(約6カ月以内)を前提に調整します。

従って、特別な事情がない限り、圧力調整を行うことはありません。

なぜなら、用紙の糊強度が保証されている限り、圧着強度を変更せずに目的の強度に維持できるからです。

ただし、図で表現しているように、糊強度が著しく劣化しているにも関わらず圧力を強めることで目的達成しようとする考え方も考えられます。

圧力を強め過ぎると、紙破壊や用紙の亀裂等々障害が発生します。

用紙密着度を、個人で調整することはアナログ的な感覚で実施することになり、非常に曖昧な判定になってしまいます。強度を正確に判定するには、引っ張りバネ方式の強度測定器で測定しない限り安定しません。